

## 中国経済と米国経済

経済成長率をもたらすのは、生産性の上昇と雇用の増加である。工業化の過程では、生産性と雇用、双方の同時的上昇が起こる。供給サイドでは、工業化投資が生産性の上昇と能力の拡大を推し進める一方、需要サイドでは能力拡大投資そのものが需要となるからだ。さらに、生産性の上昇による競争力の強化によって輸出も拡大する。

工業化の下での高成長は日本も経験したことだし、中国やその他の新興国も現にそうである。問題は、供給力の拡大が需要を上回ってくると、投資が効率化投資に限られてくることだ。生産性の上昇は雇用の減少につながり、雇用はサービス部門で吸収されなくてはならなくなる。サービス部門の生産性の上昇が極めて低いため、成長率は大きく減速していくことになる。中国の現状といてよい。

中国を先頭に新興国の工業化が限界に達すると、製造業を中心とした財の経済でのデフレ化が加速してくる。需要の落ち込みによる原油等の資源価格の大幅下落と、過剰生産がもたらす工業品価格の低下が、グローバル化した世界経済に広がってくるのだ。

工業化を終えたサービス経済中心の先進工業国の問題は、生産性が伸びてこないことと、高齢化によって労働力人口の減少が加速してきていることだ。財経済からのデフレ圧力に対抗して、消費を中心とした国内f需要の増加政策が効果を示すにつれ、労働需給が逼迫し、賃金上昇が加速してくる。成長率も物価も大きく上昇しない中である。

賃金の上昇が成長率を上回り、労働分配率が上昇し、企業収益を低下させ、超金融緩和でバブル化した株価の不安定化をもたらす。米国の現状がそうだが、総じて言えるのは、ケインズ的な需要拡大政策の限界と、それを映した世界経済成長率の天井の低下が目立ってきた、ということである。

(十字路 2015.4.7)